

## 編集後記

人生を「ゆりかごから墓場」までとはよく言うが、今回は「ゆりかご」に揺られる前から非常に幅広い世代に係わる論著が多数集まった。初めて編集会議に加わった私にとっては非常に手強いものでもあったが、過去の「明日の臨床」に勝るとも劣らぬ編となったと自負する。医学の進歩はまさに日進月歩で目を見張るものがあるが、逆に少し油断し、疎かにすればたちまち取り残されてしまう。今回ご投稿頂いた6編（総説4編、解説2編）はいずれも充実したものであり、最新的话题に富んだものであった。

日本はかつて類をみない超高齢化社会を迎え、認知症が増加、在宅医療の推進の中、認知症管理、とりわけ周辺症状（BPSD）のコントロールが介護にとって重要なポイントとなりそうである。本年度高血圧治療ガイドラインが改訂（JSH2014）されるが、エビデンスとなるべき臨床研究の信頼性が一部で問題視されている。一刻も早い真相解明が待たれる。外科的手術療法と内科管理の進歩により救命し得た先天性心疾患患者の多くが成人となった今、医療面とともに社会面でのサポートも求められるであろう。最近では出生前診断の進歩により正確に早期診断が行われる時代になった。倫理、社会的問題を多く含むものであり、今後十分な議論が必要とされるであろう。2012年12月東京で起こった学校給食中に起きたアナフィラキシーショックは記憶に新しく、食物アレルギーに対する取り組みが進むことを願っている。昔に較べがん治療は格段に進歩したが、相変わらず死亡率は第一位である。光線力学療法は消化器がんにおける低侵襲治療の1つとして今後期待されるものである。

医学・医療の進歩は目覚ましく、医療に対する期待も増大している。しかしながら、「社会保障・税一体改革」「社会保障制度プログラム法案」など社会保障制度の縮小が議論されていることは残念でならない。

最後に、ご多忙な合間にも関わらずご執筆頂いた諸先生に感謝申し上げます。

[編集委員 野村 博彦]

---

### 編集委員 (50音順 \*印委員長)

池山 淳	粥川 裕平	杉藤 徹志*	高橋 英世
野村 博彦	松本 美富士	山本 武司	

---

明日の臨床

Vol. 25 No. 1

2013年12月25日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制作 (株)東海共同印刷

---

頒価 1,000円・発行部数 7,000部